

平成28年度  
学校評価報告書

四天王寺学園中学校  
学校評価検討委員会

## 目次

1. はじめに（校長）	-----	2
2. 学園建学の精神と教育理念	-----	4
3. 自己評価集計結果分析	-----	5
4. 学校関係者評価	-----	23

## はじめに

四天王寺学園中学校  
校長 檀上 慎二

本校では授業をはじめとした種々の教育活動に真摯に取り組んでいるところですが、生徒がより良い教育を受けるためには、私たちの教育活動を客観的に評価し、検証することがまず必要です。その評価・検証の上に立ち、教育活動を向上させるための支援・改善が浮かび上がり、支援・改善を行うことで本校の教育水準の向上を図ることができるからです。

また、学校運営の質に対する保護者の関心が高まる中で、学校が適切に説明責任を果たすとともに、学校の状況に関する共通理解を持つことにより相互の連携協力の促進が図られることが期待されます。

これらのことから、学校の教育活動やその他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校及び設置者等が学校運営の改善を図ること、及び、評価結果等を広く保護者等に公表していくことが求められます。

学校評価は、以下の3つを目的として実施するものであり、これにより生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指すための取り組みです。

- ① 各学校が、自らの教育活動やその他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民などから理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力により学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

### \* 学校評価の定義

- (1) 各学校の教職員が行う評価【自己評価】
- (2) 保護者や地域住民などの学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価【学校関係者評価】
- (3) 学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況もふまえて、教育活動やその他の学校運営の状況について、専門的視点から行う評価【第三者評価】

この定義に基づいて、本校の学校評価とは具体的には

- (1) Plan (目標設定) : 前年度の評価活動の反省を踏まえた、重点目標の設定
- (2) Do (実行) : 重点目標の具体的な取り組みおよびその内容
- (3) Check (点検) : 学校教育自己診断の結果と分析
- (4) Action (行動) : 評価結果の検証と次年度目標への反映

のPDCAサイクルに基づいて教育活動を展開していくことです。これらを実践する事によって、「学校評価ガイドライン」に掲げられている上記の目的を達成していきます。

本校は平成26年度4月に学校評価検討委員会を設置し、「学校教育法」及び「学校教育法施行細則」に基づき、学校評価として、自己評価と学校関係者評価を実施いたしております。平成28年度は、平成28年11月から12月にかけて行った生徒対象の授業評価アンケートと教員対象の自己評価を分析し、更にこの自己評価を後援会の方にも検討していただき、「学校関係者評価」をいただきました。

本校は、「学校関係者評価」を真摯に受け止め、建学の祖、聖徳太子の「和のご精神」に基づき、信念ある人間の育成に力を注ぐとともに、保護者・地域社会・学校の相互連携のもとで、これからの社会変化に対応できる生徒を育成する教育を追求してまいります。

## 学園建学の精神と教育理念

本学園は、大正11年（1922年）、聖徳太子1300年御忌の記念事業の一環として、世の平和と人々の繁栄を願い、聖徳太子の「和を以て貴しとなす」（十七条憲法第一条）という「和」のご精神を礎とし、勝鬘婦人を範とする人間教育を目的として設立され、

【1】 一切衆生悉有仏性→おおよそ生あるものに対するものを慈しむ心

【2】 人皆宇宙法界の縁に抛る→あらゆるものに対する感謝の心

など、仏の心を自然に体得出来るように、教科学習・学校行事・生徒会活動などが、学校生活の中に工夫され編成されている。

建学の精神は、「敬田院設立の精神」に示される「帰依渴仰 断悪修善 速證無上大菩薩」であり、菩薩のような人間像を範とする人間の育成によって、平和国家の実現と世の人々の幸福づくりを希求するものである。調和を目指す円満なる仏の境地である、「和の精神」を率先垂範できる人間を、世に送り出す教育こそが、尊い社会的使命・役割であり、教育理念である。

学園生徒・教職員の日々の活動は次のとおりである。

(1) 朝な夕なガレリアにおいて、お釈迦様誕生のレリーフに向かって礼拝する。

(2) 聖歌を斉唱する。

(3) 『般若心経』を読誦する。

(4) 学園訓を斉唱する。

一つ 和を以て貴しとなす

一つ 四恩に報いよ

四恩とは 国の恩 父母の恩 世間の恩 仏の恩なり

一つ 誠実を旨とせよ

一つ 礼儀を正しくせよ

一つ 健康を重んぜよ

(5) 豊かな知識が、豊かな心に繋がるよう仏教教育を取り入れている。

(6) 将来の高等教育に向けて、豊富な中等教育のカリキュラムを編成している。

(7) 「人と人との和」「人と物との和」「人と仕事の和」など、その実践に教科活動はもちろん、学校行事・クラブ活動に積極的に取り組んでいる。

以上の学園の教育方針により、生徒本人の資質・能力を伸張し、円満でかつ心優しい「慈悲共生」の実践できる信念ある人間の育成を目指している。

**\*学校評価の取り組みとして、建学の精神の具現化はもとより、学園訓が掲げる真摯な教育方針の徹底を目標とする。**

## 平成28年度自己評価集計結果分析

### ▶ 本学園教育方針

- 日本のリーダーとして活躍できる強い精神力の育成
- 規律正しく、厳しさを備えた人格の形成
- 将来希望する世界に力強く雄飛し得る学力の養成

### ▶ 今年度重点目標 【PLAN】

本学園の教育活動において前項の建学の精神と教育理念、および上記の教育方針で掲げた事項を実現することとは、即ち、「高い知性と、丈夫な心身を備え、人との和を尊重し、社会の発展に貢献できる人物の育成」に他ならない。

同時に、この人物像は、大人が、そして社会が、未来を担う子どもたちに望む姿でもある。そのような希望に沿える教育活動を行っていくべく、今年度は次のA～Eの重点目標を掲げることとした。

- A (人間教育・仏教教育)：人としての誠実な在り方の追求と周囲との信頼関係の構築
- B (社会適応能力の育成)：個人としての高い志の育成と集団生活の中で協力する姿勢を醸成するための教育活動の推進
- C (生活指導)：挨拶の励行・校内の美化・規律正しい生活習慣の確立
- D (学習指導・進路指導)：生徒の夢・希望を実現するための進路指導
- E (広報活動・保護者対応)：広く教育活動を公開し、保護者の信頼と期待に応える学校づくり

### ▶ 評価アンケート実施要領

今年度重点目標A～Eの達成度を検証するために、各重点目標達成に通じる実行項目について、以下のような形で評価アンケートを実施した。

尚、経年比較をして、より良い方向へ進んでいることを確認するため、アンケート質問紙は前年度とほぼ同じものを用いている。故に、次頁以降の結果報告においては、質問紙のままではなく、各重点目標との関係性から実行項目を整理し、併せてその評価結果を掲載することとした。そのため、同じ実行項目が複数回出てくることがある。

- (1) 実施対象： 回答教員数 (18名)  
回答生徒数 (156名)
- (2) 実施形態： 質問紙法
- (3) 評価： 1 (あてはまる)、2 (ややあてはまる)、3 (あまりあてはまらない)、4 (あてはまらない) の4段階
- (4) 評価点の算出式： $5 \times (\text{「あてはまる」の}\%) + 4 \times (\text{「ややあてはまる」の}\%) + 2 \times (\text{「あまりあてはまらない」の}\%) + 1 \times (\text{「あてはまらない」の}\%)$

➤ 重点目標毎の実行項目・集計結果・分析

アンケート結果として、各実行項目に対する評価、結果分析、次年度以降への反映・対策を下表にて示す。尚、実行項目の欄の「★」は、生徒回答分であることを示す。

1) 重点目標Aに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目【DO】	評価点 28年度	評価点 27年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	4.6	4.7	76.5%	17.6%	5.9%	0.0%
2	会議や委員会などに積極的に参加している。	4.8	4.6	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%
3	同じ学年・教科・分掌の教員間で連携するように努めている。	4.6	4.5	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%
4	本学園の施設・設備は満足できるものであると思う。	4.4	4.7	77.8%	5.6%	16.7%	0.0%
5	人権教育に関して生徒の意識を高めるように指導している。	4.3	4.2	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%
6	相手を思いやる態度を育て、相互の信頼を深めることで良好な人間関係を築くよう指導している。	4.6	4.5	72.2%	22.2%	5.6%	0.0%
7	アンケートや個別面談を通して、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応をおこなっている。	4.5	4.2	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%
8	部活動を通して、生徒の学校生活を充実させ、社会性を身につけさせることができている。	3.4	4.5	35.3%	23.5%	29.4%	11.8%
9	目の前にいる一人ひとりの生徒に向き合い、支援している。	4.5	4.5	61.1%	33.3%	5.6%	0.0%

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	一昨年度から高い評価点を維持し続けており、昨年度より「1」の割合が増加した。	機会ある毎に建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	「1」「2」だけで100%。一昨年度から上昇し続け、高い評価点に到達している。	次年度以降も積極性を失うことなく、建設的な姿勢をもって会議等に臨みたい。
3	「1」「2」だけで100%。一昨年度から上昇し続け、高い評価点に到達している。	教員間の連携をより一層強化し、更に組織的に教育活動を行い、生徒のより良い成長に資していきたい。
4	8割以上の教員が、本学園の施設・設備に満足をしている。	時代の流れを見ながら、引き続き、施設・設備の有効な活用方法を模索し続けていきたい。
5	評価点が、一昨年度から0.1ポイントずつ上昇し続けている。	社会人育成の場として学校での人権教育は大変重要であり、学校生活のあらゆる場面で人権尊重の姿勢を育成していきたい。
6	昨年度よりも「1」の割合が約10%増加し、評価点も一昨年度より上昇し続けている。	学習指導にとどまらず、思いやりや信頼といった、社会生活を送る上で不可欠な点についての心の教育ができています。今後も努力を続けたい。
7	一昨年度から評価点が上昇し続けている。「1」の割合も約10%増加している。	生徒達にとって学校が良き学びの場となるように、教員間あるいは学校・家庭間で連携を強め、いじめ問題の防止・根絶に向けて取り組んでいきたい。
8	評価点が、昨年度より1.1ポイント下がり、目標点に到達できていない。	部活動は、教科指導とは異なる観点で生徒の指導を行える大切な場である。指導体制や活動状況などの確認や見直しを行い、部活動の活性化を図る必要がある。
9	9割以上の教員が、生徒個々に対しての目配りをする事ができている。	クラス担任による個人面談や、放課後の個別の学習支援活動での生徒との交流を一層大切にし、集団と同時に個への目線を忘れない教育活動を続けたい。



2) 重点目標Bに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目【DO】	評価点 28年度	評価点 27年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	4.6	4.7	76.5%	17.6%	5.9%	0.0%
2	会議や委員会などに積極的に参加している。	4.8	4.6	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%
3	同じ学年・教科・分掌の教員間で連携するように努めている。	4.6	4.5	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%
4	本学園の施設・設備は満足できるものであると思う。	4.4	4.7	77.8%	5.6%	16.7%	0.0%
5	人権教育に関して生徒の意識を高めるように指導している。	4.3	4.2	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%
6	相手を思いやる態度を育て、相互の信頼を深めることで良好な人間関係を築くよう指導している。	4.6	4.5	72.2%	22.2%	5.6%	0.0%
7	アンケートや個別面談を通して、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応をおこなっている。	4.5	4.2	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%
8	生徒が、自ら計画を立て、行動できるように指導している。	4.3	4.6	41.2%	52.9%	5.9%	0.0%
9	文化祭・体育祭・宿泊学習などの行事を通して、生徒の学校生活を充実させている。	4.4	4.5	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%
10	部活動を通して、生徒の学校生活を充実させ、社会性を身につけさせることができている。	3.4	4.5	35.3%	23.5%	29.4%	11.8%
11	授業研究を十分にしている。	4.3	4.5	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%
12	授業時間を厳守し、生徒にも同様の指導をしている。	4.4	4.8	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%
13	★予習をしてから授業に臨んでいる。	3.6	3.6	36.3%	31.5%	19.6%	12.7%

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	一昨年度から高い評価点を維持し続けており、昨年度より「1」の割合が増加した。	機会ある毎に建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	「1」「2」だけで100%。一昨年度から上昇し続け、高い評価点に到達している。	次年度以降も積極性を失うことなく、建設的な姿勢をもって会議等に臨みたい。
3	「1」「2」だけで100%。一昨年度から上昇し続け、高い評価点に到達している。	教員間の連携をより一層強化し、更に組織的に教育活動を行い、生徒のより良い成長に資していきたい。
4	8割以上の教員が、本学園の施設・設備に満足をしている。	時代の流れを見ながら、引き続き、施設・設備の有効な活用方法を模索し続けていきたい。
5	評価点が、一昨年度から0.1ポイントずつ上昇し続けている。	社会人育成の場として学校での人権教育は大変重要であり、学校生活のあらゆる場面で人権尊重の姿勢を育成していきたい。
6	昨年度よりも「1」の割合が約10%増加し、評価点も一昨年度より上昇し続けている。	学習指導にとどまらず、思いやりや信頼といった、社会生活を送る上で不可欠な点についての心の教育ができています。今後も努力を続けたい。
7	一昨年度から評価点が上昇し続けている。「1」の割合も約10%増加している。	生徒達にとって学校が良き学びの場となるように、教員間あるいは学校・家庭間で連携を強め、いじめ問題の防止・根絶に向けて取り組んでいきたい。
8	9割以上の教員が、生徒の自立心・主体性の育成に寄与できていると感じている。	これからの社会を生きていく生徒の自立心・主体性の育成は、教育の中でも特に需要の高い分野である。引き続き、積極的に取り組みたい。
9	9割以上の教員が、学校行事の意義を尊重し、生徒の学校生活の充実につなげることができている。	当然であるが、惰性・マンネリに陥らぬように注意し、毎年反省と見直しを行う等して、行事と学校生活のより一層の充実を図りたい。
10	評価点が、昨年度より1.1ポイント下がり、目標点に到達できていない。	部活動は、教科指導とは異なる観点で生徒の指導を行える大切な場である。指導体制や活動状況などの確認や見直しを行い、部活動の活性化を図る必要がある。
11	昨年度は「1」「2」のみで100%であったが、今年度は「3」の回答が出ている。	様々な取り組みの中で多忙ではあるが、互いに思いやりを持って勤務し、全教員が授業を一番大切にできるゆとりをつくり出せるように努めたい。
12	9割以上の教員が、時間を大切に作る姿勢を生徒に示すことができている。	時間を厳守することは社会人として最も大切なことである。授業以外の様々な場面でも適切な指導を続けていきたい。
13	7割弱の生徒が予習をして授業に臨んでいる状態だが、目標点には到達していない。	予習の効果を伝える、予習用課題を用意する等して、更に多くの生徒が予習に取り組むように指導したい。

14	★授業後に復習をしている。	<b>2.9</b>	2.8	16.4%	31.7%	33.8%	18.1%
15	★すぐに授業が受けられるように準備（教科書・プリントなど）している。	<b>4.7</b>	4.5	77.0%	18.9%	3.2%	0.9%
16	★授業に集中して取り組み、自分自身で考えようと努めている。	<b>4.2</b>	4.0	47.2%	39.1%	10.4%	3.3%
17	★授業でわからなかった点は質問している。	<b>3.1</b>	3.1	24.8%	27.5%	25.5%	22.2%

14	昨年度より数値は上昇するも、目標点には未到達であり、良好な状態とは言い難い。	宿題を細かく出す、復習用小テストを行う等して、既習事項を確実に反復させ、その定着を図りたい。
15	昨年度よりも評価点が上昇し、約 9.5 割の生徒が授業の準備を適切に行えている。	授業に対して前向きな状態であることが窺える。引き続き、生徒たちの向学心を高められるように、授業のマネー指導と同時に内容の充実も図りたい。
16	昨年度よりも評価点が上昇し、約 8.5 割の生徒が授業に集中できている。	引き続き、生徒が授業に対しての集中力を保てるように注意喚起しつつ、授業の工夫を凝らしていきたい。
17	昨年度からあまり変わっておらず、目標点にも未到達。良好な状態とは言い難い。	質問しやすくなるように、授業中や放課後などで質問の時間を取るようにしたい。

3) 重点目標Cに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目【DO】	評価点 28年度	評価点 27年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	4.6	4.7	76.5%	17.6%	5.9%	0.0%
2	会議や委員会などに積極的に参加している。	4.8	4.6	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%
3	同じ学年・教科・分掌の教員間で連携するように努めている。	4.6	4.5	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%
4	本学園の施設・設備は満足できるものであると思う。	4.4	4.7	77.8%	5.6%	16.7%	0.0%
5	校内の美化および生徒の健康管理に注意し、安全な学校生活が送れるよう配慮している。	4.3	4.5	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%
6	健康・安全に対する意識を高めるよう、機会をとらえて情報を提供している。	4.5	4.6	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%
7	挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。	4.7	4.7	72.2%	27.8%	0.0%	0.0%
8	部活動を通して、生徒の学校生活を充実させ、社会性を身につけさせることができている。	3.4	4.5	35.3%	23.5%	29.4%	11.8%
9	授業時間を厳守し、生徒にも同様の指導をしている。	4.4	4.8	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%
10	アンケートや個別面談を通して、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応をおこなっている。	4.5	4.2	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%
11	目の前にいる一人ひとりの生徒に向き合い、支援している。	4.5	4.5	61.1%	33.3%	5.6%	0.0%
12	生徒の問題行動に対して組織的に対応できている。	4.3	4.2	66.7%	22.2%	0.0%	11.1%
13	生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている。	4.5	4.2	64.7%	29.4%	5.9%	0.0%
14	生徒指導は『教員全員で』という意識を持ち、 <u>情報の共有を適切に行っている。</u> (下線部は今年度追加。)	4.2	4.5	70.6%	11.8%	5.9%	11.8%

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	一昨年度から高い評価点を維持し続けており、昨年度より「1」の割合が増加した。	機会ある毎に建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	「1」「2」だけで100%。一昨年度から上昇し続け、高い評価点に到達している。	次年度以降も積極性を失うことなく、建設的な姿勢をもって会議等に臨みたい。
3	「1」「2」だけで100%。一昨年度から上昇し続け、高い評価点に到達している。	教員間の連携をより一層強化し、更に組織的に教育活動を行い、生徒のより良い成長に資していきたい。
4	8割以上の教員が、本学園の施設・設備に満足をしている。	時代の流れを見ながら、引き続き、施設・設備の有効な活用方法を模索し続けていきたい。
5	9割以上の教員が、校内の保健・衛生面への配慮ができていると考えている。	開校3年目の新しい校舎とはいえ、清潔に保つべく清掃指導を丁寧に行う。また、手洗い・うがい・換気の指導も続け、健康面への注意も促していきたい。
6	9割以上の教員が、健康や安全に関する情報提供の重要性を認識し、且つ、適切に提供できている。	養護教諭による保健だよりの発行など、健康や安全に関する情報提供を今後も適宜行い、生徒の意識の向上に資していきたい。
7	「1」「2」だけで100%。昨年度に引き続き、高い評価点に到達できている。	社会生活を営む上で不可欠な挨拶や時間の遵守などについて、適切に指導を行うことができている。今後も努力を続けたい。
8	評価点が、昨年度より1.1ポイント下がり、目標点に到達できていない。	部活動は、教科指導とは異なる観点で生徒の指導を行える大切な場である。指導体制や活動状況などの確認や見直しを行い、部活動の活性化を図る必要がある。
9	9割以上の教員が、時間を大切にす姿勢を生徒に示すことができている。	時間を厳守することは社会人として最も大切なことである。授業以外の様々な場面でも適切な指導を続けたい。
10	一昨年度から評価点が上昇し続けている。「1」の割合も約10%増加している。	生徒達にとって学校が良き学びの場となるように、教員間あるいは学校・家庭間で連携を強め、いじめ問題の防止・根絶に向けて取り組んでいきたい。
11	9割以上の教員が、生徒個々に対しての目配りをすることができている。	クラス担任による個人面談や、放課後の個別の学習支援活動での生徒との交流を一層大切にし、集団と同時に個への目線を忘れない教育活動を続けたい。
12	一昨年度から評価点が上昇し続けている。「1」の割合が10%強増えているが、「4」の回答が出ている。	生徒の健全な成長という目標の下で教員間の結束・連携のより一層の強化を図りたい。問題そのものの指導のみならず、機会ある毎に全生徒への啓発も行っていきたい。
13	一昨年度から評価点が上昇し続けている。「1」の割合も約10%増加している。	学級担任のみならず所属学年の教員間で情報を共有し、学年団としても適切な連絡や対応を保護者に行っていけるように注意したい。
14	8割以上の教員が、適切な形で生徒指導に携わることができている。	「3」「4」の回答があることを踏まえて、生徒指導の在り方を見直す必要がある。まずは学年所属教員間、そして全教員での連携の下で組織的に生徒指導に取り組めるようにしたい。

4) 重点目標Dに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目【DO】	評価点 28年度	評価点 27年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	<b>4.6</b>	4.7	76.5%	17.6%	5.9%	0.0%
2	会議や委員会などに積極的に参加している。	<b>4.8</b>	4.6	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%
3	同じ学年・教科・分掌の教員間で連携するように努めている。	<b>4.6</b>	4.5	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%
4	本学園の施設・設備は満足できるものであると思う。	<b>4.4</b>	4.7	77.8%	5.6%	16.7%	0.0%
5	進路指導が計画的に行われており、進路希望を実現しようとする意識を高めている。	<b>3.9</b>	4.3	27.8%	55.6%	11.1%	5.6%
6	生徒の進路選択に役立つように適切な情報の提供や資料作成に努めている。	<b>3.9</b>	4.2	38.9%	38.9%	22.2%	0.0%
7	必要に応じて予習・復習・提出物の状態を把握し、指導している。	<b>4.4</b>	4.2	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
8	提出物・小テストを通じて、各生徒の課題を学年で共有し、解決につなげている。	<b>3.9</b>	4.1	29.4%	52.9%	17.6%	0.0%
9	生徒1人1人の到達度に関して、適切な評価基準に基づく評価が行われている。	<b>4.1</b>	4.3	47.1%	35.3%	17.6%	0.0%
10	目の前にいる一人ひとりの生徒に向き合い、支援している。	<b>4.5</b>	4.5	61.1%	33.3%	5.6%	0.0%
11	授業研究を十分にしている。	<b>4.3</b>	4.5	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%
12	★予習をしてから授業に臨んでいる。	<b>3.6</b>	3.6	36.3%	31.5%	19.6%	12.7%

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	一昨年度から高い評価点を維持し続けており、昨年度より「1」の割合が増加した。	機会ある毎に建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	「1」「2」だけで100%。一昨年度から上昇し続け、高い評価点に到達している。	次年度以降も積極性を失うことなく、建設的な姿勢をもって会議等に臨みたい。
3	「1」「2」だけで100%。一昨年度から上昇し続け、高い評価点に到達している。	教員間の連携をより一層強化し、更に組織的に教育活動を行い、生徒のより良い成長に資していきたい。
4	8割以上の教員が、本学園の施設・設備に満足をしている。	時代の流れを見ながら、引き続き、施設・設備の有効な活用方法を模索し続けていきたい。
5	評価点が、昨年度より0.4ポイント下がり、目標点に到達できていない。	次年度より高校が開設される中で、進路指導の重要性は一層高まる。計画性のある進路指導を学校として行えるように取り組みの見直しを行う必要がある。
6	評価点が、昨年度より0.3ポイント下がり、目標点に到達できていない。	早急に学校としての進路指導計画を見直し、定期的に資料提示や進路指導HR等の機会を持てるようにする必要がある。
7	「3」「4」の回答のあった昨年度より改善され、「1」「2」のみで100%である。	課題等の確認は各生徒の理解度・習得状況の把握の重要な機会であり、今後も個々の機会を一層大切にしたい。
8	評価点が、昨年度より0.2ポイント下がり、目標点に到達できていない。	全教員で協力して、各生徒の課題を把握・共有し、その解決に向けて組織的に取り組めるように、より良い指導体制を築くべく努めたい。
9	昨年度は「4」の回答があったが、今年度は解消されている。	人を評価する立場にある者として慎重さをもって、適切な評価を行い、その後の生徒の成長につなげてもらえるように声掛け等も行っていきたい。
10	9割以上の教員が、生徒個々に対しての目配りをする事ができている。	クラス担任による個人面談や、放課後の個別の学習支援活動での生徒との交流を一層大切にし、集団と同時に個への目線を忘れない教育活動を続けたい。
11	昨年度は「1」「2」のみで100%であったが、今年度は「3」の回答が出ている。	様々な取り組みの中で多忙ではあるが、互いに思いやりを持って勤務し、全教員が授業を一番大切にできるゆとりをつくり出せるように努めたい。
12	7割弱の生徒が予習をして授業に臨んでいる状態だが、目標点には到達していない。	予習の効果を伝える、予習用課題を用意する等して、更に多くの生徒が予習に取り組むように指導したい。



13	★授業後に復習をしている。	<b>2.9</b>	2.8	16.4%	31.7%	33.8%	18.1%
14	★すぐに授業が受けられるように準備(教科書・プリントなど)している。	<b>4.7</b>	4.5	77.0%	18.9%	3.2%	0.9%
15	★授業に集中して取り組み、自分自身で考えようと努めている。	<b>4.2</b>	4.0	47.2%	39.1%	10.4%	3.3%
16	★授業でわからなかった点は質問している。	<b>3.1</b>	3.1	24.8%	27.5%	25.5%	22.2%
17	★授業の開始、終了時間は定刻通りである。	<b>4.5</b>	4.4	67.5%	23.5%	6.6%	2.4%
18	★授業中の説明の声は十分に聞こえている。	<b>4.7</b>	4.6	80.0%	14.0%	5.0%	1.0%
19	★先生の説明はわかりやすい。	<b>4.2</b>	4.1	52.8%	31.3%	11.3%	4.7%
20	★板書・プリントなどは工夫されている。	<b>4.2</b>	4.2	54.6%	31.6%	9.8%	3.9%
21	★先生の熱意が感じられる授業である。	<b>4.3</b>	4.2	59.5%	29.5%	8.1%	2.9%
22	★興味・関心がわき、もっと学びたいような授業である。	<b>3.7</b>	3.7	35.8%	37.8%	16.3%	10.1%
23	★先生は生徒の質問を大切にしている。	<b>4.3</b>	4.1	54.7%	33.3%	8.3%	3.8%
24	★授業の進む速さは理解するのにちょうどよい速さである。	<b>4.1</b>	4.0	49.5%	32.5%	13.3%	4.7%

13	昨年度より数値は上昇するも、目標点には未到達であり、良好な状態とは言い難い。	宿題を細かく出す、復習用小テストを行う等して、既習事項を確実に反復させ、その定着を図りたい。
14	昨年度よりも評価点が上昇し、約 9.5 割の生徒が授業の準備を適切に行えている。	授業に対して前向きな状態であることが窺える。引き続き、生徒たちの向学心を高められるように、授業のマナー指導と同時に内容の充実も図りたい。
15	昨年度よりも評価点が上昇し、約 8.5 割の生徒が授業に集中できている。	引き続き、生徒が授業に対しての集中力を保てるように注意喚起しつつ、授業の工夫を凝らしていきたい。
16	昨年度からあまり変わっておらず、目標点にも未到達。良好な状態とは言い難い。	質問しやすくなるように、授業中や放課後などで質問の時間を取るようにしたい。
17	9 割以上の教員が、授業の開始時刻・終了時刻を守っている。	時間は秩序ある学校生活のベースである。引き続き、この良好な状態を保つべく努力したい。
18	9 割以上の教員が、自身の声で授業内容の伝達を行えている。	当然のことではあるが、まずは熱を込めた声で、教師としての心意気を生徒に示していきたい。
19	8 割以上の生徒が、現在の教師の説明で授業内容を理解している。	全員が分かる授業を目指し、更に研鑽を積み、生徒の発達段階に応じた、より良い授業を行っていきたい。
20	約 8.5 割の生徒が、授業における教員側の工夫を感じ取っている。	引き続き、より多くの生徒に学ぶ喜び、知る喜びを感じてもらえる工夫を凝らしていきたい。
21	9 割近くの生徒が、授業にかける教師の熱意を感じている。	引き続き、授業中の良い緊張感のある空気を大切に、熱意ある授業を心がけたい。
22	7 割強の生徒が興味・関心を感じながら授業に参加できている。	より多くの生徒が学習に意欲を持てるように、授業の更なる工夫を行うと同時に生徒個々が抱える問題にもしっかりと目を向けたい。
23	昨年度よりも評価点が上昇。9 割近くの生徒が、質問への対応に満足している。	適切な形で質問を受け、答えられるように、授業中や放課後などで時間を取るようにしたい。
24	8 割以上の生徒が、授業の進度を適切であると感じている。	習熟度別クラス編成の成果と思われる。引き続き、生徒の習熟段階に応じて授業展開を工夫していきたい。

5) 重点目標Eに関するアンケート結果と考察 (評価の目標点=4.0)

	実行項目【DO】	評価点 28年度	評価点 27年度	評価			
				1	2	3	4
1	建学の精神を理解し、教育活動に努めている。	4.6	4.7	76.5%	17.6%	5.9%	0.0%
2	会議や委員会などに積極的に参加している。	4.8	4.6	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%
3	同じ学年・教科・分掌の教員間で連携するように努めている。	4.6	4.5	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%
4	本学園の施設・設備は満足できるものであると思う。	4.4	4.7	77.8%	5.6%	16.7%	0.0%
5	防災訓練を実施し、生徒の防災意識を高める努力ができています。	4.6	4.8	76.5%	17.6%	5.9%	0.0%
6	生徒の校内安全(不審者対応・事故発生時の対応等)について何をすべきかを認識している。	4.2	4.5	44.4%	44.4%	11.1%	0.0%
7	健康・安全に対する意識を高めるよう、機会をとらえて情報を提供している。	4.5	4.6	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%
8	生徒1人1人の到達度に関して、適切な評価基準に基づく評価が行われている。	4.1	4.3	47.1%	35.3%	17.6%	0.0%
9	生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている。	4.5	4.2	64.7%	29.4%	5.9%	0.0%
10	保護者への連絡や情報公開を適切に行っている。	4.5	4.4	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%
11	学校見学などを通して、情報公開のための努力がなされている。	4.7	4.8	72.2%	27.8%	0.0%	0.0%
12	学校行事に際して、近隣住民への説明が十分になされている。	4.3	4.5	40.0%	53.3%	6.7%	0.0%
13	ホームページ等を活用し、教育活動や生徒の学校生活についての情報発信に努めている。	4.3	4.7	50.0%	38.9%	11.1%	0.0%

	結果分析 【CHECK】	次年度以降への反映・対策 【ACTION】
1	一昨年度から高い評価点を維持し続けており、昨年度より「1」の割合が増加した。	機会ある毎に建学の精神を生徒と共に反芻し、今まで以上に、日々の教育活動に反映させたい。
2	「1」「2」だけで100%。一昨年度から上昇し続け、高い評価点到達している。	次年度以降も積極性を失うことなく、建設的な姿勢をもって会議等に臨みたい。
3	「1」「2」だけで100%。一昨年度から上昇し続け、高い評価点到達している。	教員間の連携をより一層強化し、更に組織的に教育活動を行い、生徒のより良い成長に資していきたい。
4	8割以上の教員が、本学園の施設・設備に満足をしている。	時代の流れを見ながら、引き続き、施設・設備の有効な活用方法を模索し続けていきたい。
5	9割以上の教員が、生徒の防災意識の向上に寄与できているとの実感を持っている。	現在の日本では、震災遭遇の可能性の想定は必須であり、他の災害への対応も含めて、安全を確保する行動をとれるように確実に指導・訓練を行っていきたい。
6	8割以上の教員が、非常時の対応について適切な認識を持つことができている。	不審者対応研修、救命法講習などでの学びを、現場での素早い判断・行動として適切に活かせるようにしていきたい。
7	9割以上の教員が、健康や安全に関する情報提供の重要性を認識し、且つ、適切に提供できている。	養護教諭による保健だよりの発行など、健康や安全に関する情報提供を今後も適宜行い、生徒の意識の向上に資していきたい。
8	昨年度は「4」の回答があったが、今年度は解消されている。	人を評価する立場にある者として慎重さをもって、適切な評価を行い、その後の生徒の成長につなげてもらえるように声掛け等も行っていきたい。
9	一昨年度から評価点が上昇し続けている。「1」の割合も約10%増加している。	学級担任のみならず所属学年の教員間で情報を共有し、学年団としても適切な連絡や対応を保護者に行っていけるように注意したい。
10	9割以上の教員が、保護者との連携を適切にとるべく努力している。	引き続き、保護者と教師が協力し合って生徒の指導に当たることができるように努力していきたい。
11	「1」「2」だけで100%。非常に良好な状態である。	引き続き、入試説明会などの個々の機会を有効に活用して、本校の教育活動について周知を図る努力を続けたい。
12	9割以上の教員が、地域との関係性を大切にしていることが窺える。	今後も学校と地域との連携強化に努め、近隣の方々の理解の下で円滑に教育活動を行えるように努める。
13	8割以上の教員が、本校の諸活動に関する情報発信に意欲的に携わっている。	本校HP系の活躍が大きい。教科ブログや学年通信の発行なども含めて、引き続き積極的な情報発信を心がけ、本校の良さを伝えていきたい。

14	個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている。	4.7	4.3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
15	入学者数確保のための諸活動に積極的に取り組んでいる。(今年度設定した新規の項目)	4.4		50.0%	43.8%	6.3%	0.0%

14	「1」「2」だけで100%。昨年度から上昇し、高い評価点に到達している。	今後も、個人情報の扱いには十分な注意を払い、教育活動に支障を来たすことがないようにし、この良い状態を持続させられるように努めたい。
15	9割以上の教員が、入試関連の広報活動に関心を持ち、行動していることが窺える。	私学として特色ある学校づくりに勤しみ、少子化の進む中でも、より多くの生徒達に入学を志望してもらえるように可能な努力を続けていくことが重要である。

➤ 総括 —重点目標毎の概況・反省と今後の展望—

<p>A（人間教育・仏教教育） 人としての誠実な在り方の追求と周囲との信頼関係の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この目標に関しては、概ね良好な評価となっている。</li> <li>・唯一、部活動についての実行項目での評価が目標点に未到達となっている。教員の長時間勤務や休日返上で労働が問題視される中ではあるが、教員間で協力しながら、より良く工夫をして、多方面に渡る生徒達の活躍の場、且つ、良質な人間教育の場を確保できるように努めたい。</li> <li>・人権教育に関して、今年度は性的マイノリティの問題の学習会を実施した。今後も様々な人権問題について学び、生徒により良い伝達ができるように努めたい。</li> </ul>
<p>B（社会適応能力の育成） 個人としての高い志の育成と集団生活の中で協力する姿勢を醸成するための教育活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目 13・14・17 は、いずれも生徒回答分であるが、評価が低い点が目立つ。左記の目標に照らし、本学園の教師として「個人としての高い志の育成」に更なる腐心をしなければならない。やがて厳しい社会に出てゆく生徒達が、挫けることなく様々な困難に立ち向かって生きてゆく力を身につけさせることは、教育活動において必須の任務である。授業やその他の様々な活動を通じて「努力を続けていける人」を育てたい。</li> <li>・上記と、Aでも検証した部活動を除いては、概ね良好な評価となっているが、今後もより一層の向上を図りたい。</li> </ul>
<p>C（生活指導） 挨拶の励行・校内の美化・規律正しい生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果から、この目標に関しては概ね良好な状態と言えるが、今後もより一層の向上を図りたい。</li> <li>・基本的生活習慣の確立の指導は、社会人育成の場として確実に全うしなければならない点である。挨拶運動や、手帳を使つてのスケジュールリングの指導などを行い、自己管理力のある生徒の育成を期したい。</li> <li>・健康管理の力も適切に身につけられるように、引き続き、情報を提供するなどして、病気やケガに対する注意喚起も行っていきたい。</li> <li>・いじめ問題に関しては「いじめ防止基本方針」に基づき、引き続き、いじめ問題の予防・撲滅に努めたい。</li> <li>・保護者との連携については、クラス保護者会や保護者個別面談を通じて情報交換を行い、一層の緊密化を図る。そして、共に生徒の健やかな成長をサポートするというスタンスを保ち、信頼関係を築き合えるように努めたい。</li> </ul>
<p>D（学習指導・進路指導） 生徒の夢・希望を実現するための進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この目標に関しては、教員の自己評価において昨年度より評価点が下がり、目標点未到達の項目が複数ある。次年度に向けて、丁寧に、且つ謙虚に見直しを行い、向上を図りたい。</li> <li>・多忙な中にあっても全教員が互いに工夫をし、各々が教科指導にもっと専念でき、指導力の向上を図れる環境をつくりたい。</li> <li>・進路指導に関して、学校の進路指導計画に則って全教員が指導に当たれるようにし、学年間での取り組みのばらつきの解消を図り、各生徒の個性や能力に応じた進路指導を行うべく、これまでの指導状況の見直しを早急に行う必要がある。</li> <li>・ALの研修や大学生による進路講話等、有益な取り組みを今後も継続していきたい。</li> </ul>
<p>E（広報活動・保護者対応） 広く教育活動を公開し、保護者の信頼と期待に応える学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この目標に関しては、すべて目標点に到達しており、良好な評価となっている。次年度以降も変わらぬ努力を続け、保護者と社会の信頼と期待に応え得る学校であり続けたい。</li> </ul>

**A（人間教育・仏教教育）について**

学校生活の中で、子供が同級生やクラスメート、先輩や後輩との良好な人間関係を築くことが出来ているかどうか、また先生方との間に信頼関係があるかどうかということは、保護者として最も関心のある事柄の1つであります。項目6および9が高い評価点となった結果から、子供達が毎日安心して通学し、充実した学校生活を送ることの出来る環境が整っていることを確認することが出来ました。今後とも引き続き、人権研修等を含めた人間形成に必要な教育に力を入れていただき、子供達1人ひとりと向き合いながら、きめ細やかな指導をお願い致します。

**B（社会適応能力の育成）について**

項目10について、部活動は、「先輩、後輩という学年の枠を超えた人間関係を構築する」、「自らの役割を果たしながら、同じ志を持つ仲間と協力し合うことの大切さを学ぶ」、「目標に向かって日々努力を重ね、達成感を味わう」等、この時期の子供達にとって、やがて社会の一員として自立して生きていくために必要な様々な力を育成する大変重要な経験の場であると考えます。部活動の意義、目的、重要性等を子供達に伝える教育を行っていただくとともに、本校の実情に合った部活動の在り方について、引き続き検討していただきたいと思えます。

今後、子供達の持つ様々な興味、関心に合った部活動の種類や活動の範囲が拡大し、全員がそれぞれの得意分野で個性を發揮しながら、生き生きと放課後を過ごすことの出来る体制が整うことを希望いたします。

**C（生活指導）について**

項目14で、今年度追加となった「(全教員間における)情報の適切な共有」は、子供達を指導していただくにあたり、大変重要なポイントであると考えます。

多感で、ともすれば誤った道に迷い込むこともあるこの年代の子供達にとって、どの先生からも同じことを同じように指導されることで、その教えの大切さを理解し、自らの言動を改め、正しい道を選択することにつながると考えます。また必要に応じて、保護者にも指導内容についてお知らせいただき、自宅においても先生方の指導方針に沿った家庭教育を行うことで、子供が「常に支えられ、見守られている安心感」を持つことが出来ると思えます。

先生方には、引き続き保護者との協力体制を充実させていただくとともに、学年、教科、分掌間における更なる連携強化を図っていただき、一丸となって子供達の指導に取り組んでいただきたいと思えます。

今年度の評価のばらつきが解消され、評価点が向上していくことを期待いたします。



#### D（学習指導・進路指導）について

小中一貫コースから外部高等学校への受験に向けての指導、ならびに学園高等学校開校に伴い 2019 年度から始まる大学受験に向けての進路指導については、保護者も非常に大きな関心を持ち、学園の手腕に大いに期待を寄せているところです。そのような中で、項目 5、6 について、昨年度よりも評価点が下がり、かつ目標点に到達していないということは、見過ごすことの出来ない、大変残念な結果であります。原因等について詳細に分析をしていただき、早急に具体的な対応策、改善策を講じていただくことを切に希望いたします。

項目 6 に関して、特に高校受験においては、大阪府内だけでなく他県の高校進学希望者への詳細な受験情報の提供を、また大学受験においては、2020 年度から大幅に変更される大学入試制度についての最新情報の提供を、それぞれ迅速かつ適切に行っていただきますよう併せてお願い致します。

子供達の評価の中で項目 13 の評価点が特に低いという結果について、復習する時間が確保できていないと感じている子供が多いことが分かります。学んだことを確実に理解し、定着させるためには、日頃から宿題や小テスト等を通して復習に十分な時間を費やすことが大切であるということを、子供達に繰り返し伝え、その進捗状況を定期的に確認していくことが必要であると考えます。復習に力を入れることで、理解が深まり、よりよい結果につながるということを、子供達自身が実感できるよう、先生方には、適切な言葉かけや効果的な課題の提示、工夫を凝らした授業展開等を行っていただくことをお願い致します。

なお、課題を提示するにあたっては、特定の科目や一定の時期に集中することのないよう教科間での調整を行っていただき、子供達が計画的にじっくりと課題に取り組むことが出来るような配慮をお願い致します。

#### E（広報活動・保護者対応）について

保護者は、本校の建学の精神、教育理念に深く共感し、数ある学校の中から本校を選び、子供を入学させました。子供達に日々接する先生方には、常にそのことを念頭に置いて指導にあたっていただくことを強く望みます。項目 1 について、高い評価点となったことは、保護者との信頼関係を構築するうえで大変望ましい結果であると考えます。評価点が更に向上することを期待いたします。また項目 4 について、充実した設備を最大限に活用した最新の授業が展開されていることを、昨年度同様、その高い評価から確認することが出来ました。

項目 9、10、13 について、今後も保護者への迅速な連絡、適切な情報公開をはじめ、広く一般に向けても学園の教育理念や教育活動等を適宜発信することで、期待と信頼に応える学園づくりに力を尽くしていただきたいと思います。

発行 平成29年6月22日  
四天王寺学園中学校

